

校区に残る
かわら こうば
瓦工場

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

5月の中ごろ、元市立図書館長の鮫嶋安豊さんから質問がありました。



古い記録を調べていたら、今のわらび苑の駐車場あたりに昔、瓦工場があったという情報がありますが、そこは上西校区ですか、それとも榕城校区の平田ですか？（⇒）

上西の瓦工場①

上西の瓦工場②

瓦工場があった場所を地図で確認する
長野健太郎さん



健太郎さんが高校生のころだった。稲刈りの手伝いをしていた時に、おじいさんが「昔はココに瓦工場があった」と教えてくれたという。

ココは一段高くなっていて、掘れば下に粘土があった。粒子の細かい青紫色の粘土だった。川の傍だったからか、近くの土地からも粘土が出て、層になっていた。瓦作りに適していたのだろう。のちに御器の欠片や素焼きがいくつも出てきた。



中目健一郎さんの話



十歳ごろのことだったと思う。家を建てたときに、ココの瓦を使った。周りの人が馬車を使う時代に、瓦工場の会社はトラックを持っていた。「木原さん」と呼んでいた。友だちとの学校帰りに、自分だけトラックの助手席に乗せてもらったのをしっかり覚えている。工場のすぐ下のわが家の瓦を使ってもらったからかもしれない。

長野実弘さんの話



教員住宅になるの前は馬を走らせたり、野球をしたりする広場だった。瓦工場のほかに製材所もあった。「木原ノブオジー」と呼んでいた。鴨女町の人だったと思う。製材する発動機を使わせてもらって、砂糖すめをしたものだった。

元教員住宅ココ

中目さん宅

横山公民館

園田商店

種子島の瓦葺きは全国で三番目に古い歴史を持ちます。一番は江戸（1720年）、二番目は豪雪地帯の北海道松前藩（1771年）、三番目が種子島（1777年）。台風に見舞われることが多いために粘土瓦の必要があり、甘藷・サトウキビ栽培による経済がそれを支えたというのが早かった理由だそうです。先輩方からの昔の話は、現代にとっての知的財産といえます。

〈取材協力〉日高守さん・八元喜三さん・池亀勇さん・横山孝さん 〈資料提供〉鮫嶋安豊さん